



## コロナ禍下での半年間

幼児学舎子どもライブラリー 理事長 赤西雅之

### 【コロナ禍】

今年、上半期(4月から9月まで)の6ヶ月間は、コロナウイルス感染症の拡大に伴って教育・保育関係の学校、園のあらゆる行事は、中止・縮小となりました。

また、夏の風物詩である地域・町・村・自治会の「なつまつり」「花火大会」は、ほとんどが中止となってしまいました。さらに、学校、園休業のあと失われた授業時間を確保するために、全国で夏休みの短縮の措置が取られた結果、子ども達にとっては夏の風景、夏の楽しみ、季節感、あらゆる情緒体験もなくなりました。私達大人にとっては、40年、50年に1回の変則夏です。「まあ今年はしょうがないか」とあきらめ、納得もできますが、生きてきた年数の分母の小さい子ども達にとっては、とても大切な1回きりの夏です。大人とは違った喪失感、残念感、思考停止を味わうことになってしまった夏でした。

この状況の中で、私達は「子どもの成長を止めてはならない」を合言葉にして、3月以降コロナ禍下であってもできることはないかと模索し、工夫を重ね、知恵を集め、協力を求めて、細くても途切れることのない教育・保育の実践をすすめてきました。

そして、10月になってコロナ感染症は第二波の感染者数が中止まりというところで、社会活動は復活しつつあります。



運動会 ダンス練習 役員さんと

### 【行事の意味】

ここまでの今年の「コロナ禍下での行事」の顛末を振り返って、教育・保育の結果は大切ですが、その途中経過にこそ子どもを育てることの意義があるのだと、あらためて実感しています。

子どもにとっての「盆おどり会」や「運動会」などの非日常の体験となる行事は、自らの達成感やグループでの協働を実感する場であり、大人に守られているという安心感と信頼感を確認する場です。また、練習等を通して共に喜び合うことやお互いを認め合うことにより、自らの立つ位置を客観的に把握することにもつながります。

子どもにとって必要な「豊かな体験」とは、結果の場にいるということだけでなく、その結果を産み出すためのさまざまな出会いや葛藤や試行錯誤を共有する体験のことではないかと考えます。

### 【そして……】

そして、今回8月下旬の「盆おどり会」と、10月下旬の「運動会」を実施して、あらためて気が付いたことがあります。

保護者の皆様へ、各家庭「行事出席者名簿」を提出していただき、家族の「健康チェック表」を確認し、手指消毒を義務化したにもかかわらず、行事への参加人数は例年とほぼ変わりありませんでした。「参加はためらわれる」「気持ちがモヤモヤする」「どうしても大丈夫かという気持ちが残る」と意見をいただきながらも、実際はほぼ例年通りの参加だったということでしょう。

そして、結果として、

「数カ月間、先が見えず不安でしたが、行事の中で人と触れ合い、人と人のあたたかさを久しぶりに感じる事ができた時間でした。」

「生き生きとしている娘を見て、世の中の自粛ムード、殺伐とした雰囲気を感じていた私にとって、この盆おどり会は当たり前じゃないんだ、できることはあるんだと、希望を感じました。」

「一体感と勢い、メリハリ、笑顔でパワフルな光景に、本来の人間の姿、コロナにより失われた姿(失われつつある姿)だとハッとしました。」という前向きな感想となりました。

### 【歩み続ける】

そういうことなんだと教えられました。自粛があたりまえの中で、私達がコロナ禍に配慮して、対策を工夫して、勇気を持ってする行事は、私達だけのものではないということです。人が集う社会にとって、大切なこと、必要なこと、忘れられていることを思い出させる、気付かせるという役目も併せ持っているのです。

園を中心として社会貢献をする。「子どもの成長を止めない」という教育・保育の具体的な実例を実践している。とあらためて教えられました。

子どもの成長が続くように、一瞬も止まることのない、この常でない半年間に、私達は「何をしてきたか?」「何をしてこなかったのか?」ということが問われます。

できたこと、できなかったことを振り返り、反省することは大切ですが、後悔したり、恨みごとを言ったりする必要はないと考えます。

私達の仕事は、「観察→計画→実践→振り返り」の連続の中にあります。前を向いて、皆さんと共に手を携えて、歩みを止めない日々を続けたいと思います。

## 「変わっても 変わっていない」 幼児学舎子どもライブラリー 園長 赤西 新志

★ 皆さんお元気ですか?お久しぶりです。

先日子どもライブラリーは無事に運動会を終えました。

祖父母の方も含め、総勢700人を超える行事でした。この新型コロナウイルスの時期にたくさんの人が公園に集まりましたが、出来る限りの事を想定して取り組みました。世の中の状況は決して良くはありませんが、子どもライブラリーは色々なことに取り組み続けています。どこをとっても制限ばかりで時には嫌になりますが、前を向いて頑張ろうと職員皆気持ちを強く持っているところです。

さて、僕がじんろく組を卒園した1995年に子どもライブラリーにやってきた小深田(前川)先生は24年間働かれ、途中で園長に就任され、この緊急事態宣言中の3月末日で転勤されました。そして平成生まれの園長が誕生しました。前任の先生は大変ライブラリーに貢献され、静かな方ですが影響力もありました。自分もやるしかないと思いつつも、正直荷は重く、中々前向きな気持ちにはなれませんでしたし、難しい感情を抱えてもいました。2020年度がやっと6月から始まり、朝は受け入れのラッシュです。「おはようございます。」の挨拶の中で面白い発見がありました。新入園の保護者は、僕の事を園長先生と呼ぶのです。20年以上経つ中の大きな変化に“何の変化もない・4月に入園された皆さんはそれが普通”だったのです。「そうか、そうだなあ。」妙に納得しました。

昨年度のじんろく組の親子ミュージカルは、リハーサルで止まったままです。それでも小学生になり、皆通常の日々を過ごしています。毎日あつという間で新しい事がどんどんやってきて、気付いたらもう冬がすぐそこまで来ています。とても不思議です。止まったままで、残った気持ちはまだ何か考える余地がありそうで、中々次に進むことを許してくれません。卒園していった皆さんの活躍を祈っています。また会いに来てくださいね。



## コロナ禍での日々 幼児学舎子どもライブラリー 主幹保育教諭 土井 友紀子

★ キオラクラブの皆様、いかがお過ごしでしょうか。

ラグビーワールドカップに日本中が沸き、東京オリンピックが間近となった2019年、翌年2020年がこんな激動の年となるとは誰も予想できませんでした。

子どもライブラリーでもいろいろなことがありました。なかなか心が片付かないこともたくさんありました。4月は長年一緒だった前川園長先生の異動の寂しさに加えて、子ども達が登園してこないガラッと静かな園舎。日々のなれない業務をこなしながら、静かに次への力を蓄えるというのは、今思うと新たな挑戦だったなと思います。

6月から様々な感染症対策を徹底しながらも、通常保育が戻ってきました。貴重な新学期を経験できなかった遅れを、子どもも大人もみんな取り戻しました。世の中の流れから考えると中止や縮小になって当たり前のこと、ライブラリーはどんどんやりました。「盆おどり会」も「運動会」も大きな規模で実施しました。不思議な感覚でした。ライブラリーで仕事をしている時の自分と、一歩ライブラリーから離れた時の自分が、違う人間のように感じることもありました。心と体のつながりや、人と人とのつながりなど、コロナ禍の中で考えることも自然と増えたような気がします。

学校生活の入学や卒業年度だった皆さん、社会人生活をスタートさせた皆さん、卒園生の全ての皆さん、ご家族の皆さん、特に今年はいろいろあると思います。



このキオラ新聞を手にとりいただき、少しの時間なつかしいライブラリーに思いを馳せてもらったり、明日からの活力につながる方が少しでもいらっしゃる、幸いです。

子どもライブラリーの行事等に、「(制限なしで)どなたでもぜひお越しください!!」とお呼びできる日が待ち遠しいです。

(小学1年生でライブラリーの運動会に来てくれた皆さん、今回は小学生競技への参加ができず、申し訳ありませんでした。)

## 「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かさじ」

横田 尚克

### ★ 新入社員にパソコンは使えるのかと聞いたところ、パソコンは使えませんとの回答。

最近の若い子は、スマートフォンに慣れ親しんでいるので使えるかと思えばそうでもないらしい。逆にスマートフォン。私も10年ほど使っているのに、苦手意識はなかったが、若い子には、知識も技術も叶わない。休憩時間にはスマートフォンでプロのような絵を描いている子もいた。その子もパソコンは使えないのに。

最近の心配事は、中一になる娘。ライブラリーに通う頃から「パパ大好き」というようなことをしてくれる娘ではなかったが、小学生になっても変わらずツンデレの態度は続くので、ライブラリー卒園の女の子は、大人だと勝手に思っていた。逆に早めの反抗期と思えばいいだろうくらいに考えていたら大間違い。中学生になった途端、立派な反抗期に成長し、パパは避けられる存在に変わってしまった。態度の悪さ、そこにスマートフォン。暇さえあれば友達とのラインや動画を見る。我々の世代には想像もできない子ども達の世界。しかし話の出来ない状態。イライラや心配が積もるばかり。

我が家では、ライブラリー時代より私は、基本怒らないということになっていたのだが、妻に私の怒り方に一貫性がないと指摘される。感情的に怒っているらしい。

原点に戻って父親学習会に参加「怒られ続けるとふてぶてしい子に育ちます。」「子どもは作られる。子どもは親を見ている。」「子どもが泣くには理由がある。」

結局、娘に私の考えを押し付けるだけで、娘が私をどう見てくかは考えていなかったようである。私は体重100kg、「私に言うばかりでちっとも痩せてないやん。」それだけではないのだが、娘の態度にもちゃんと理由があった。

子どもや、部下はわからなくて当たり前、その態度に怒ることなく、その態度やできない理由を考えて、できるように導いていく。私の場合は、その前に自分の姿勢がもためられているのだが。

ライブラリーの教えは、当時わかった気になっていた。今からでも遅くはない。娘にも会社でも理解すること、見せること、自分の姿勢を変えていこう。

## キオラの皆様、お元気ですか？

カナカナクラブ会長 手島 紗也加

### ★ コロナ禍中という事もあり、様々な事柄において気が休まらなかったり、考えさせられる事が多い世の中ですね。

そんな中、子どもライブラリーの先生方や子どもたちの姿を見ると、とても前向きです。その前向きさの裏側には、先生方の細々とした大人としての配慮・責任が詰まっている事を、役員として・保護者として、日々感じているところです。

さて、今年度の役員11名は、コロナ禍自粛生活の真只中より活動をスタートさせることとなりました。例年と違う流れ・変更・配慮の中、一年間やっていくことを皆で覚悟したことが強く印象に残ります。そしてライブラリー1学期を締めくくる行事「なつまつり」。こちらも時期の変更に伴い、「盆おどり会」の改名や意味を新たに變化して行われました。こんな世の中なので、私達役員間でも「直前での中止もあり得るのは覚悟する。ただ、どう展開しても妥協はしない」を誓う反面、夜店するにあたって最大限の衛生・食材内容・人の流れ方の工夫…。考えたらきりが無い事ばかりです。それでも園は「全ては子どもたちのために」を根底に置き、ぶれる事なく考え続けている事を、そばで活動している中で、ひしひしと伝わってきました。

そして子どもの事柄だけに留まらない所がライブラリーマジックです。「人の一生懸命さが伝わる保護者同士の繋がり」これも一つのドラマがあると、特に当日を見ていて感じていました。ベテランのかたから新しいかたへ受け継がれる何か。それはマニュアルでも資料でもなく、子どもと共にライブラリー生活の中で培われた熱い何か…と言ったところでしょうか。そんな光景があるのは温かく嬉しく、これからも続く事を願います。

キオラの皆様、今年は気軽に来場して頂けなくてとても残念でしたが、また来年以降楽しみに待っていてください。また、一部お手伝いを依頼させて頂きましたお母様方、大変ありがとうございました。



# 姉妹園の先生からのメッセージ! ✨

お久しぶりです

加古川こども園 園長 春名 由美子

「いつもと違う夏」と、2020年の夏はそう言われていましたが、毎年1年に1回会えるはずの人と会えないということが、こんなに淋しいものなのかと思知りました。世界中がコロナの影響を受けた今夏は、ニュージーランドへ行くことができませんでした。

30年来続いていたことが出来ないことで調子は狂い、園の職員からは「ドードー」となだめられる始末。何より、家族・親戚のように待っていてくれる友人たちに会えないのが、なんとも切ない夏でした。遠くの国でも思いは同じで、友人たちは、メールをくれたり、ビデオ電話もかかってきました。夜な夜なNZワインをあげ、チーズを取り寄せ、1年に1度だけNZで飲むスプライトも飲み、何とか気持ちを紛らわせました。

今年、NZ学校体験への参加や、ホームステイ受け入れを考えておられた方もあったと思います。きっとまたチャンスがありますようにと願うばかりです。

昨年の夏は、子どもライブラリーの卒園生の方も何人か参加されました。(昨年、是非このことを伝えたかったので、思い出して書きます。)

参加された小学生たちは、とにかく、ひたすら「あそびたい!」と、エネルギーな子どもたちでした。5分でも時間があれば、鬼ごっこをしていました。何も道具がなくてもあそぶ。すごかったです。彼らから、何事も、「自ら楽しむ力」、「自ら楽しむに変える力」の大切さを教わりました。そして、その“力”には、少しの“努力”も必要であることにも気づかされました。

「努力が才能か・・・」というような言葉がありますが、私は、「努力は才能」と、20期の卒園生に教わりました。努力できる力、努力を楽しみに変える力はまさしく、ライブラリーで培われた才能です。みんなあると思います。自分を大切に、それぞれの道で心豊かに過ごしていきたいですね。私も頑張ります。



新たな一歩

播磨灘こども園 園長 前川 昌恵

キオラクラブの皆様お元気ですか?大学を卒業してから20数年、子どもライブラリー一筋で働いてきました。しかし2020年4月より、グループ園である播磨灘こども園に転勤が決まり、新たな道をすすみ始めています。転勤に際し、懐かしい方からたくさんのメッセージを頂き、この場を借りてお礼申し上げます。嬉しかったです!ありがとうございました。

子どもライブラリーから一歩外に出て、教育・保育の現場に入るとはもちろん初めてです。改めて私は恵まれた環境で働かせてもらっていたのだということを痛感しています。通勤時間が短かったこと。栄養満点の美味しいお昼ご飯を食べていたこと。子どもの事について話し合える先生

がいた事、小さなことでも相談できる人がいた事、何でもない日常の話をできる時間があった事、そこにいっただけで、楽しくて緊張感があり学びがあって・・・考え始めるときりがありません。でも勇気を出して一歩踏み出たことでいい事にも出会います。これは自分の中で大きな喜びです。

子どもライブラリー卒園児の必須アイテム「適応力」。これを私も育ててきたつもりです。多分ちゃんと適応してやっています。でも自分自身の奥底で適応しきれない部分が残っているのも事実です。でもそれはそれでちゃんとずっと持っておいてもいいのかなと思っています。そしてそれが薄れそうになったら、また子どもライブラリーの空気を吸いに遊びに行きたいと思っています。子どもライブラリーの卒園生として皆さんに恥ずかしくないよう、播磨灘こども園での日々を重ねて行きたいと思っています。お近くにお越しの際は是非お立ち寄りください。



卒園生の田中愛子さんと一緒に働いています。





# 卒園生の近況

各方面でご活躍中の卒園生からの近況報告を寄せてもらいました。



## またお世話になります

20期卒園生 田中 愛子

私は現在、“子どもの家福祉会 播磨灘こども園”で働き出し、3年目になります。保育士になりたいと思ったのもライブラリーに通っていたころの先生のことが好きだったからです。憧れから自分も保育士になりたいと思って短期大学へ進みました。私は大学より、いくつかの保育園で実習をしてきましたが、どこかしっかりこない感じがしていました。そんな時、加古川こども園を見学させてもらいとても懐かし感じました。15年ぶりに再会した春名先生はあの頃のまま、私のことを覚えていてくれたことには驚き、嬉しかったです。

今年は前川先生が播磨灘こども園の園長先生になられ、職場の中でも「あいちゃん」と呼ばれていて照れ臭いですが内心すごく喜んでます。今は3歳児を担当していて、遊ぶ時やご飯を食べている時、子どもたちと一緒にいる時間が楽しいです。

また、今年は初めて運動会担当と大役をさせていただきました。練習が始まると子どもたちは毎日忙しく、特にかっぱ組(5歳児)の子どもたちはじんろくのように運動会でのお手伝いに走り回ってくれました！1,2年目で担任をしていた子どもたちだったので、すごく成長しているなと感じました。ダンスをしている姿にはさらに感動し、涙腺も緩んでいました。運動会終了後、保護者の方からの「感動しました」「素敵な運動会をありがとうございます」などの温かい言葉をいただきました。運動会が無事に終わったのも子どもたちのおかげだなと感じています。

生活でも行事でも先生が子どものことをどれだけ考えているのか、どれだけエネルギーを使っているのか身に染みているところですが、だからこそ、“自分はどんな子どもだったのかな？”と考える時があります。「クロスステッチから逃げていたよな～」「巻紙全然しなかったよな～」クロスも巻紙も楽しんでいる5歳児を見ると頭が上がりません。

まだまだ子ども理解はできていないし、浅く簡単にしか考えることができていない私ですが、理事長先生・前川園長先生のご指導の元、安心感と程よい緊張感を持ちながら、子どもたちと共に成長していきたいと思っています！

20期卒園生 松本 玲

子どもライブラリーを卒業し、早18年が経ち私は23歳になりました。今年大学を卒業し、社会人1年目です。

学生から社会人になり、日々学生の頃との責任の違いを感じています。現在損害保険の会社で、日々、事故で困っていらっしゃる方の支えに少しでもなれるようにこの半年間を過ごしてきました。慣れないことも多くあり、辛いこともあります。自身を奮い立たせながら毎日仕事に励んでおります。

今私が諦めず、頑張ることができているのは、今までの経験があったからこそだと感じています。

昨年は「姫路お城の女王」として1年間地元である大好きな姫路市を県内外にPRしていました。元々、人前で話をするのがとても苦手だったこともあり、不安でいっぱいなスタートでしたが、姫路お城の女王の活動を通じ、地元や県外の方、海外の方と触れ合い、姫路の沢山の魅力を伝えていくにつれ、段々と、不安がなくなりました。1人でも多くの方にこの素敵な街姫路を知って欲しい！という想いでいっぱいになりました。

小学校から高校までは、内気な性格であり多くの方と話すことは得意ではなかったのですが、大学ではこんな自分を変えたい！と強く思うようになり、海外留学や議員インターンシップ等、様々なことにチャレンジしました。

今考えると、自由闊達な校風の下、子どもライブラリーで学んだ考え方や何事も、やりたいことにチャレンジさせてくださる環境のおかげだったと思います。

今後も今まで得た経験を礎に、明るい未来への期待を胸に人生を歩んでいきたいです。

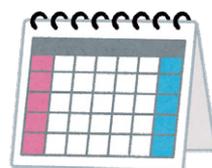
24期卒園生 芝智子

今年の春から大学生となった私は、幼稚園教諭や保育士の資格を取ることを目標に、大学に通っています。大学での生活にも慣れ、問題なく楽しい毎日過ごしています、と素直にお伝えすることができれば良かったのですが、大学生生活の始まりは順調とはいいたいたいものでした。コロナ対策のため寮に入ることも、入学式に参加することもできず、そしてさらに、前期は対面授業をすべて中止し、オンラインのみで授業を行うこととなったからです。大学生活が始まったにも関わらず、一歩も大学に足を踏み入れないまま前期は終了しました。大学での生活を楽しみにしていた私としては、なかなか思うようにいかない現状にモヤモヤした気持ちを抱えることしかできませんでした。

ですが、そんな生活も前期で終了しました。僅かですが、大学での対面授業が後期から始まったからです。今まで、画面越しでしか顔を合わせていなかった人たちに直接会えることが決まり、とても嬉しい気持ちでいっぱいでした。そしてようやくみんなと対面した日、私は気づいたことが一つありました。それはオンライン授業でお互いの顔を知っていたため、初めて会った感覚があまりない、ということです。このことは私にとっては結構大きなことで、初対面の人と話すときに比べて、断然オンラインでのみとはいえ、顔を知っていた人のほうが話しやすかったです。知り合いのいない大学ということもあり、友達ができるか少し心配していたのですが、おかげ様で無事友達もできました。前期の間はオンラインばかりの授業に不満を抱いていましたが、今となっては少し感謝もしています。

大学生生活の始まりは少しうまくいきませんが、今はこの生活にも慣れ、順調に毎日楽しく過ごしています。これからも、毎日自分なりに楽しく過ごせば良いと思います。何だか本当に近況報告だけとなってしまいましたが、ライブラリーのほうにもまた顔を寄せに行きますね。

# 2020 ライブラリー



お知らせ

## 2020年4月より、園長が変わりました。

ライブラリーの歴史も長くなってきました。3代目です。平成生まれ、ライブラリー出身です。前向きに一生懸命務めます。皆様よろしくお願い致します。

赤西 新志



## ★ コロナの渦中卒園していった1年生のみなさんへ

まだまだ緊張のある生活の中、保護者の皆さん、子ども達、お元気ですか？  
楽しみにしていた小学校はどうですか？面白いことは見つかりましたか？友達はできましたか？新しい生活が始まり、目まぐるしい毎日をご過ごしていますが、私たちにとって最初で最後の舞台練習(親子ミュージカル)となった3月1日は忘れられない特別な1日となっています。ことばでは表せない複雑な気持ちもありますが、その日に向かうまでの1ヶ月で皆の頑張る力や色々なことを吸収しようとする力など、子どもの持っている力の凄さを感じられたことが嬉しかったです。また、皆のために多くの方々が協力してくれたり、助けてくれたり、大事にされていることを改めて実感しました。一人一人ライブラリーで過ごした時間は違うけれど、そこで身につけた力を小学校で発揮してくれることを期待し、これからもずっと応援しています。また、皆に会える日を楽しみにしています。

2019年度じんろく組担任 芝崎友美・谷屋裕子



## 「あなたは何色」

2019年度カナカナクラブ会長・橋本 幸子さん

みなさんお元気ですか？学校に通えるようになり、娘はいろんな壁にぶつかって涙を流すときがあります。  
そんな時は、部屋に入り2・3時間 絵を描いてみたり、箱で何かを作ってみたり、クロスステッチなどをして心の中を整理しているようです。根っこには、ライブラリーでの生活が心の支えになっているのだと感じています。  
今 いろんな色を集め、自分色を作っている娘、8年後 どんな素敵な色になるのだろうと…  
娘も私も、一緒に躓きまた起き上がって、少しずつ前に進んでいます。  
みなさんと一緒に、笑顔で会える日を楽しみにしています。そして、昨年は色々励ましの言葉をいただき、温かく見守ってくださり本当に有難うございました。

## 8年ぶりのライブラリーミュージカル

ミュージカルに出演予定だった 中学3年生・南 智尋さん

ミュージカルに参加してもらえないかという連絡がきて、とてもうれしくて練習前からワクワクしていました。最初のライブラリーでの練習で8年ぶりに先生方や友達と再会しました。8年ぶりのライブラリーは何もかもが懐かしかったです。私が一番印象的だったのは、練習に来ているママさんやパパさんたちが必死に練習している様子を見て、私たちの時もこんなに苦労してやっていたんだなと気付かされました。じんろくだった頃の私には分からなかったことですが、今回このような機会を頂いたことでたくさんの人たちに支えられていたことに心から感謝しました。

最後の文化ホール練習のとき、これが最後の練習になるとは思ってなかったので「本番ができない」と聞いてすごくショックでした。何がショックだったのかというと保護者や先生方の本気や大変さを間近で見ていたので胸が痛かったです。

本番ができなかったじんろくのみんなもきっと練習した経験がこれからいい思い出になると思います。一生懸命リズムをカウントしているじんろくのみんなはすごくかわいかったです。本番の舞台に立つことはできませんでしたが、じんろくのみんなと過ごすことが出来てよかったです。ありがとうございました。

## ★ キオラクラブ会員のページ 卒園生・卒園生の保護者の方の事業やお店などを紹介します

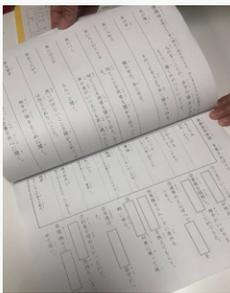
### 神頭伸忠さん 特定非営利活動法人 ハーモニ-福祉会 所長（2期卒園生）



多くの福祉事業を運営されている神頭さん、ダウン症や自閉症、精神疾患の方の自立に向けての支援をされています。福祉事業の現状は、日々変わる制度の中、厳しい運営が続いているそうです。代表になられて3年。それまでの体制や事業を刷新され若いメンバーで頑張ってきて、この一年でやっと軌道に乗って来たそうです。福祉作業者の現状は、作業者の工賃は月に1万から2万円。自立支援の一步を踏み出させるため、収入を4~5万にすること。さらに事業所単体での運営をできる力をつけることを目標とされています。内職作業を引き受けます。興味のある方は、一度、ご連絡ください。各種手作業、梱包加工請負業 内職市場 姫路店 079-289-1150

### Go Up Kids

### 狗井みかさん



オリジナルの教材

名前だけ聞くと英語教室かなと思いきや姫路に思考力を育成する教室があります。勉強すること、学力を伸ばすことが目的ではありません。子どもの考える力、集中力と根気をつくる教室です。自閉症のお子さんから勉強が苦手な子、はたまた名門私立中学校の進学校へ進学する子まで幅広い層の子どもたちが通う教室を運営されているのが、ライブラリー卒園の保護者狗井れつさん(22期生)のお母さん狗井みかさん。子どもたちの充実感と達成感を目標に一人一人に合わせたプログラムと問題を狗井さんが作られます。子どもたちはここで集中力と根気を身につけ、知識を習得していきます。面白いプログラムが多く、ただ問題を解くものではありません。知識の蓄積が、国語力をつけるの考えから、読解速読コースの本読みもプログラムの一つです。実際、本読みの理解を試す機会はなかなかありません。ここでは、講師と一冊の本を共有し、「ここ面白かった」など一緒に話をして進めます。他にもパズルやカードを使ったり、保護者が聞いてもワクワクするプログラムでした。勉強や生きる力の土台作り、興味のある方は、GO UP KIDSまずは、ホームページからご覧ください。



オリジナルの教材

### 前川前園長おすすめ

### ホテルクレール日笠

20期 23期 山中さん

<http://www.hotel-higasa.com>



姫路駅から5分、姫路城まで10分。70年の歴史をもつ由緒正しきホテル。ビジネスにも、観光にもお使いいただけます。まずは、素敵なホームページをご覧ください。

おすすめは、**夜のお食事** 要予約です  
お母さんには、イタリアンコース、お父さんには、牛づくしコース、はりまのお酒が揃っています。ご家族では、ステーキコース。家族の特別な日や、会合、お集まりにご利用ください。これからの忘年会シーズンもご検討ください。Go To Eat対象店! コロナ対策も万全です。(ぐるなび参照)



### 青大将クラブで利用させていただいているのが保護者 山根さんのお店

### ストローハット&ガロ屋

30期 33期 山根さんのお店



ストローハットは、魚町にある老舗の落ち着いた雰囲気のあるBARですが、実は、食べ物がおすすりなんです。全てが心のこもった手作りなんです。復活したカレーライス。国産牛を使用し、ワインと野菜を煮込んだカレーはおすすめ

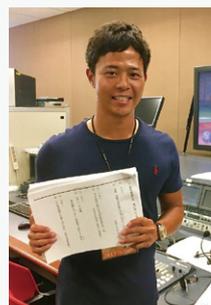
です。夫婦や家族、友人とは是非一度ご賞味ください。ここで、おしらせがあります。青大将クラブでなじみのガロ屋。現在のお店(姫路駅ピエラ1階)での営業は年内いっぱいとなります。今後に興味のある方、名残惜しい方は、是非、年内にガロ屋へ足をお運びください。



## 「おはよう朝日です」で活躍中の小西陸斗アナウンサーは子どもライブラリーの卒園生です。

キオラクラブの皆様、はじめまして。私は15期卒園生の小西陸斗と申します。(現在、朝日放送テレビのアナウンサーとして、TVやラジオでニュースをお伝えしたり、情報番組やスポーツ実況の仕事に携わっています) 卒園してもう22年が経ちますが、今でも鮮明に覚えていることが沢山あります。巻紙そっちのけでドッジボールばかりしていたので、いつも小深田先生に促されていたこと。じんろくりレーに闘志を燃やし、終わった時に涙が出そうになったこと。ミュージカルでレオタードを着たのは恥ずかしかったけど、とてもドキドキして楽しかったこと…。ライブラリーで経験したこと全てが今の自分に繋がっているような気がします。大切な思い出がいっぱい詰まった懐かしい場所、子どもライブラリーをいつか又訪れてみたいです。コロナで大変な状況が続いていますが、どうか皆様お元気で過ごして下さい。

小西陸斗



小さい時からスポーツ万能で、爽やかな好男子でした。ドッジボールやリレーが大好き。歌の練習は…。ちょっぴり泣き虫。そして小深田先生(前川先生)大好きっ子でした!! (Haruna)

## 編集後記

加古川こども園 春名由美子

長年の念願叶って、キオラ新聞の発行に携わらせていただきました！カナカナクラブ役員になるのが夢でした。キオラクラブを影で支える幹事になること、そしてこの編集後記を書くことを夢見ていました。

今号は、卒園生からの声もたくさん集まり、2年分を集約して盛沢山になりました。皆さんの各方面でのご活躍の様子、嬉しく読ませていただきました。私の園にも、2月にライブラリーの卒園生が教育保育実習にやってきます。それぞれ、自分の好きな道、挑戦した道で活躍してほしいです。

私は裏方仕事が好きです。若い頃からずっと、結婚式に参列すると、ドレスを着てあの真ん中に座ることは想像しただけでイヤで、裏方の仕事にばかり気を取られていました。式典の間インカムで段取りを指示していたり、さりげなくマイクの高さを調節したり、絶妙のタイミングでドアを開けたり。スピーチの順番をこっそり確認しに来てくれた司会者に助けられた経験もあります。

今は引っ込んでいられない立場で仕事をさせていただいていますが、本当は後ろに隠れているんな人を見るのが好きです。いろんな人を知り、いざという時に思い出してもらえる存在になれたらいいなと思いつけています。キオラクラブの細く長い繋がりが大好きです。